

2016年度量子ビームサイエンスフェスタ (第8回 MLF シンポジウム / 第34回 PF シンポジウム) 開催のお知らせ

PF シンポジウム実行委員会委員長 堀場弘司
MLF シンポジウム実行委員会委員長 鬼柳亮嗣

2016年度量子ビームサイエンスフェスタ(第8回 MLF シンポジウム/第34回 PF シンポジウム)を2017年3月14日(火)~15日(水)の日程で開催する予定となりました。会場はつくば国際会議場(エポカルつくば)です。

このシンポジウムは、施設側スタッフ、ユーザーの皆様が一堂に会することのできる機会ですので、是非ご参加下さいませようお願い申し上げます。

また、例年通り、前日の3月13日(月)の夕方からユーザーグループミーティングを開催いただくことも可能です。

詳細が決まり次第ホームページやPFニュース等で皆様にお知らせ致します。

PF 研究会「共鳴軟 X 線散乱を用いた構造物性研究の進展」開催のご案内

放射光科学第二研究系 佐賀山基, 中尾裕則

強相関電子系物質では、電子相関により多彩かつ新奇性のある物性現象が次々と発見されており、その物性機構解明には電子状態や電子の持つ自由度である電荷・軌道・スピンの秩序状態を解明することが必要不可欠といえる。その有効な実験手法として、世界的に研究・開発が進められているのが、軟 X 線領域での共鳴 X 線散乱である。軟 X 線領域では $3d$ 遷移金属の $L_{2,3}$ 吸収端 ($2p \rightarrow 3d$ 遷移) を利用することで直接 $3d$ 電子状態が観測でき、共鳴軟 X 線散乱は $3d$ 電子の詳細な電子状態やスピン状態を調べる手法として大きく発展している。フォトンファクトリーにおいても、構造物性グループを中心に軟 X 線散乱装置の整備が進められ、斜入射共鳴軟 X 線散乱によるコバルト薄膜の表面秩序状態の観測や、共鳴軟 X 線小角散乱による磁気スキルミオン格子の観測のような成果が上がりつつある。そこで本研究会では、共鳴軟 X 線散乱を用いた構造物性研究の現状と、将来に向けた軟 X 線領域での構造物性研究の展開を議論したい。

一方構造物性研究センター(CMRC)では、センターで利用可能な放射光、ミュオン、中性子を活かし、複数の自由度が同時に状態を変化させる動的な交差相関特性を解明することを目的とした CMRC プロジェクト「量子ビームを用いた多自由度強相関物質における動的交差相関物性

の解明」が発足した。本プロジェクトの中でも、共鳴軟 X 線散乱を相補的に用いる研究計画が立てられており、測定手法(共鳴軟 X 線散乱)と研究対象(強相関物質)の双方の側面から同時に議論を行うことで、今後の研究の更なる発展が期待できる。そこで今回、PF 研究会と CMRC 研究会の合同でワークショップを開催することとした。

<開催概要>

日時: 2016年9月20日, 21日

会場: 研究本館小林ホール

PF 研究会 提案代表者: 山崎裕一(東京大学/理研),
藤田全基(東北大)

所内世話人: 佐賀山基(KEK 物構研),
中尾裕則(KEK 物構研)

参加申込: 研究会ホームページ (<http://www2.kek.jp/imss/pf/workshop/kenkyukai/20160920/>) よりお申込下さい。

旅費のサポート: 希望者は 8/26(金)までにお申込下さい。予算に限りがあり、希望に添えない場合もありますので、予めご了承下さい。

ポスター発表: 発表希望者は奮ってお申込下さい。

CMRC 研究会「量子ビームを用いた多自由度強相関物質における動的交差相関物性の解明」と PF 研究会「共鳴軟 X 線散乱を用いた構造物性研究の進展」の合同ワークショップ

<プログラム>

9月20日(火)

<共鳴軟 X 線散乱を用いた構造物性研究の現状と将来 1 >

13:30-14:00 共鳴軟 X 線散乱によるスピントクスチャの観測
山崎裕一(東大/理研)

14:00-14:20 マルチフェロイック Cu_2OSeO_3 におけるスキルミオン格子の電場制御
岡村嘉大(東大工)

14:20-14:40 CrNb_3S_6 におけるカイラルソリトン格子の特異な磁場応答の観測
本田孝志(KEK 物構研)

14:40-15:10 中性子・X線・ミュオン相補利用による Mn125 系マルチフェロイック物質の磁性・構造研究
木村宏之(東北大多元研)

15:10-15:30 Coffee break

<共鳴軟 X 線散乱を用いた構造物性研究の現状と将来 2 >

15:30-16:00 共鳴 X 線回折による多極子秩序観察と応用
田中良和(理研)

16:00-16:30 時間分解軟 X 線回折・分光と SPring-8 BL07LSU での取り組み
和達大樹(東大物性研)

- 16:30-17:00 共鳴軟X線散乱へ期待すること - 量子ビームの相補利用から -
藤田全基 (東北大金研)
- 17:00-17:30 共鳴非弾性X線散乱の理論の現状と実験への期待
遠山貴巳 (東理大)
- < KEK 放射光計画 >
- 17:30-18:00 KEK 放射光 (KEK-LS) 計画の加速器設計
原田健太郎 (KEK-PF)
- 18:00-18:30 KEK 放射光で期待されるサイエンスの展開
中尾裕則 (KEK-PF)
- 19:00- 懇親会, ポスターセッション

9月21日(水)

<多自由度強相関物質における動的交差相関物性>

- 9:00-9:20 単結晶X線回折による軌道波動関数測定
坂倉輝俊 (東北大多元研)
- 9:20-9:40 スピネル型酸化物 MnV_2O_4 におけるスピン軌道混成励起の観測
松浦慧介 (東大新領域)
- 9:40-10:10 逆ファラデー効果による超高速磁化制御
佐藤琢哉 (九大理)
- 10:10-10:30 Coffee break
- 10:30-11:00 テラヘルツ帯のエレクトロマグノン共鳴
高橋陽太郎 (東大工)
- 11:00-11:30 偏極中性子非弾性散乱を用いたY型ヘキサフェライトのエレクトロマグノンの研究
中島多朗 (理研)
- 11:30-12:00 多孔性遷移金属錯体集積体におけるリチウムイオン電池を用いた電氣的磁性制御
谷口耕治 (東北大金研)
- 12:00- 最後に 佐賀山基 (KEK-PF)

Photon Factory Activity Report 2016 ユーザーレポート執筆のお願い

PFACR2016 編集委員長 佐賀山基 (KEK・PF)

Photon Factory では、施設の活動報告の一環として毎年 Photon Factory Activity Report (PFACR) を公開しております。これは当該年度に実施された実験課題の結果報告集(ユーザーレポート)であり、広く国内外に配布し PF の研究活動についてお伝えしています。皆様のご協力をおもちして 2015 年度版の編集作業は順調に進み、2016 年秋には公開される予定です。

2016 年度版である PFACR2016 の編集作業を 8 月より開始いたしました。つきましては、皆様が 2016 年度に PF で行われた研究の成果をユーザーレポートとしてお送り下さるようお願い申し上げます。2016 年 4 月から 2017 年 3 月までに実施された実験について寄稿して頂くのが基本ですが、データの解析に時間を要する等が考えられますの

で、期間前の実験結果についての報告も歓迎しています。このユーザーレポートは、2014 年度より共同利用実験課題の終了届を兼ねることになりましたので、課題責任者は一課題につき一報以上をご提出することが求められています。

PFACR は PF が研究活動に関して評価を受ける際の重要な物差しの一つであり、皆様の寄稿は PF におけるユーザー支援、ひいては皆様の研究環境の改善に繋がります。積極的にご執筆頂ければ幸いです。

ユーザーレポートの原稿や電子ファイルの準備・投稿要領は PFACR2016 のホームページ (http://www2.kek.jp/imss/pf/science/publ/acr_submission_jp.html) に掲載しておりますのでご覧下さい。執筆は英語もしくは日本語をお願いします。

<ユーザーレポート提出締め切り: 2017 年 6 月 30 日(金)>

防災・防火訓練のお知らせ

放射光科学第二系 防火・防災担当 野澤俊介・松岡亜衣

高エネルギー加速器研究機構の本年度の防災・防火訓練が **2016 年 11 月 2 日(水) 午後** に実施されます。

訓練では、緊急地震速報が発令された場合の対処、地震発生後の機構指定避難場所 (PF ニュース裏表紙参照) への避難・誘導、避難場所での職員・ユーザーの安否確認、対策本部への報告などを行います。訓練当日は、PF-AR は直接入射路建設作業のため運転停止中ですが、PF はボーナス運転を予定しており、実験を中断し訓練に参加していただく必要がございます。訓練では避難の際、MBS を閉じさせていただきますので、PF は約 1 時間実験ができなくなります。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

さらに防災訓練の後、防火訓練を行います。防火訓練は毎年、各研究所が持ち回りで行ってはいますが、今年度は物構研が担当です。地震により PF 地区で火災が発生したことを想定した防火訓練、消防署にご指導いただく消火栓からの放水訓練などを行います。

東日本大震災が発生した日はその日の朝に運転が終了し、実験ホールにはユーザーの方はあまりいらっしゃいませんでしたが、これまで毎年ユーザーの皆様にもご協力いただき訓練を行っていたこともあり、ユーザー・職員は訓練どおりに避難し、安否確認なども迅速に行うことができました。実験装置の転倒、落下などの被害はあったものの、幸いにして人的被害が全くなかったことは、日頃のユーザーの皆様との防災意識と、毎年の防災・防火訓練に起因していると確信しております。

PF では多くのユーザーが閉じられた空間で実験を行っており、放射線や化学薬品、高圧ガスなども扱っていますので、非常時には迅速な対応が取れるよう、訓練が極めて重要と考えております。一人でも多くの方に参加していただけますようご協力をよろしくお願い致します。

平成 29 年度前期共同利用実験課題公募について

高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所の放射光科学研究施設（フォトン・ファクトリー）は、電子蓄積リングから放出される放射光を用いて研究を行うための全国共同利用研究施設です。

一般（G 型）、特別 2（S2 型）、大学院生奨励（T 型）の今回の公募は 10 月上旬から受付開始し、締切は 11 月中旬を予定しております（低速陽電子実験施設の共同利用実験課題を併せて公募します）。緊急かつ重要（U 型）、予備実験・初心者（P 型）、特別 1（S1 型）については随時受付をしています。

申請は専用 Web ページ（<https://pmsweb.kek.jp/k-pas>）にアクセスして、必要事項を入力して下さい。これまで PF を利用されていない方は新規にユーザー登録が必要になりますので、余裕を持って申請ください。締切時間は Web システムで設定されており、少しでも締切時間をすぎますと受け付けられなくなりますので十分ご注意ください。2 月に審査結果の速報が電子メールで送られる予定です。採択された課題は平成 29 年 4 月に有効となり、実験が開始できます。

公募要項は「実験・研究公募要項（放射光共同利用実験）」（<http://www2.kek.jp/uskek/apply/pf.html>）をご覧ください。PF のホームページ「PF で放射光利用実験を行うには（利用プログラム）」（<http://www2.kek.jp/imss/pf/use/program/>）にも詳細を掲載しています。

不明な点は下記までお問い合わせ下さい。

研究協力課 共同利用支援室 共同利用係

Tel: 029-864-5126 Fax: 029-879-6137

Email: kyodo1@mail.kek.jp

平成 29 年度前期 フォトン・ファクトリー研究会の募集

放射光科学研究施設長 村上 洋一

物質構造科学研究所放射光科学研究施設（フォトン・ファクトリー）では放射光科学の研究推進のため、研究会の提案を全国の研究者から公募しています。この研究会は放射光科学及びその関連分野の研究の中から、重要な特定のテーマについて 1～2 日間、高エネルギー加速器研究機構のキャンパスで集中的に討議するものです。年間 6 件程度の研究会の開催を予定しております。

つきましては研究会を下記のとおり募集致しますのでご応募下さいますようお願いいたします。

記

1. 開催期間 平成 29 年 4 月～平成 29 年 9 月

2. 応募締切日 平成 28 年 12 月 16 日（金）
〔年 2 回（前期と後期）募集しています〕

3. 応募書類記載事項（A4 判、様式任意）

- (1) 研究会題名（英訳を添える）
- (2) 提案内容（400 字程度の説明）
- (3) 提案代表者氏名、所属及び職名（所内、所外を問わない）
- (4) 世話人氏名（所内の者に限る）
- (5) 開催を希望する時期
- (6) 参加予定者数及び参加が予定されている主な研究者の氏名、所属及び職名

4. 応募書類送付先（データをメールに添付して送付）

放射光科学研究施設 主幹秘書室 濱松千佳子

Email: pf-sec@pfqst.kek.jp TEL: 029-864-5196

なお、旅費、宿泊費等については実施前に詳細な打ち合わせのうえ、支給が可能な範囲で準備します（1 件当り上限 30 万円程度）。開催日程については、採択後に PAC 委員長と相談して下さい。また、研究会の報告書を KEK Proceedings として出版していただきます。

KEK 一般公開のお知らせ

一般公開実行委員会

放射光科学第一・第二研究系 船守展正、武市泰男

加速器第七研究系 阿達正浩

今年度の KEK 一般公開は 9 月 4 日（日）に開催されます。普段は見ることのできない施設や装置が多数公開となるほか、第一線で活躍する研究者による講演、こども向け体験コーナーなど、様々な企画を用意してお待ちしております。

水素発見 250 周年の今年、PF では「あっちこっち、H（水素）！」をテーマに展示を行います。燃料電池に利用される水素、高温超伝導の発現が予測される高圧下の水素、体の中で活躍する水素の解説や実際のビームライン機器を使った放射光実験の解説など、楽しく見て触って学べる展示を PF スタッフ一丸となって準備中です。また、今年は 4 年ぶりに PF リングを公開します。1 周 187 メートルのリングに整然と並ぶ電磁石群や挿入光源などの実物を見学することが可能です。毎年好評をいただいている景品付きクイズラリーも実施予定です。他に PF サイトでは物構研展示コーナーも設置し、放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子それぞれのビームを利用した研究や J-PARC 施設の解説などを行います。また、山田和芳物構研所長による「物質の中の水素がつくるワンダーランド」、千田俊哉構造生物学研究センター長による「タンパク質のこと教えます。大きさ、形、働き、そしてガンとの関係」の二つの講演が予定されています。他に KEK の全体企画としては、霧箱

教室、小林誠杯クイズ王決定戦、おもしろ物理教室（今年度は、物構研の担当で「ポケット分光器を作ろう」）などが準備されており、お子さんからお年寄りまで楽しめるような企画が盛り沢山ですので、放射光ユーザーの皆様も普段とは異なる KEK を楽しんでいただけたらと思います。ご家族、ご友人お誘い合わせの上、KEK 一般公開にお越し頂きますよう職員一同心よりお待ち申し上げます。

一般公開当日はつくばセンター（つくばエクスプレス「つくば駅」下車すぐ）と KEK 間の無料送迎バスが運行されます。自家用車でお越しの方は、KEK 内に臨時駐車場を設置しますので直接 KEK までお越しください。KEK 内では無料の巡回バスを運行しますので構内の移動にご利用ください。KEK 一般公開に関する詳しい情報は <https://www2.kek.jp/openhouse/> をご参照ください。物構研特設サイト (<http://www2.kek.jp/imss/news/2016/topics/openhouse/>) もあります。

1. 日時：2016 年 9 月 4 日（日）9：00～16：30

2. 公開施設：フォトンファクトリー、電子陽電子入射器、SuperKEKB 加速器、BelleII 測定器、コッククロフト・ウォルトン型高電圧加速器、超伝導低温工学センター、計算科学センター、放射線科学センター、機械工学センター、先端計測実験棟、先端加速器試験棟（ATF）／超伝導リアック試験施設棟（STF）など

3. 展示：大強度陽子加速器（J-PARC）、ATLAS 実験、ニュートリノ振動実験、国際リニアコライダー計画、理論展示など

4. 講演（小林ホール）：

◇ 10：00～10：45 千田俊哉（物質構造科学研究所構造生物学研究センター長）

「タンパク質のこと教えます。大きさ、形、働き、そしてガンとの関係」

◇ 11：15～12：00 山田和芳（物質構造科学研究所長）
「物質の中の水素がつくるワンダーランド」

◇ 13：30～14：15 都丸隆行（共通基盤研究施設超伝導低温工学センター准教授）

「ついに発見！重力波で宇宙を観よう」

◇ 14：45～15：30 山中 将（共通基盤研究施設機械工学センター長）「超伝導加速空洞のつくりかた」

5. サイエンスカフェ（1号館ホワイエ）：

◇ 10：45～11：30 高橋将太（KEK 素粒子原子核研究所広報コーディネーター）「素粒子のトリセツ」

◇ 12：30～13：15 藤本順平（KEK 素粒子原子核研究所講師）
「国際リニアコライダー計画に関する話題（予定）」

◇ 14：00～14：45 文珠四郎秀昭（KEK 環境安全管理室長 / 共通基盤研究施設放射線科学センター教授）

「ミネラルウォーターと水道水—どこが違う、どう違う—」

◇ 15：15～16：00 山内 正則（KEK 機構長）

「加速器でわかったこと、わからないこと」

6. その他の主な企画：○第 5 回小林誠杯クイズ王決定戦

○霧箱教室○ラジオを作ってみよう○おもしろ物理教室○科学おもちゃで遊ぼう！○なんでも質問コーナーなど。

予 定 一 覧

2016 年

9 月 4 日 KEK 一般公開（KEK つくばキャンパス）

9 月 11 日～12 日 KEK 放射光ワークショップ

9 月 20 日～21 日 CMRC 研究会「量子ビームを用いた多自由度強相関物質における動的交差相関物性の解明」と PF 研究会「共鳴軟 X 線散乱を用いた構造物性研究の進展」の合同ワークショップ（KEK・小林ホール）

10 月 28 日 PF 平成 28 年度第二期ユーザー運転開始

11 月 2 日 防災・防火訓練

12 月 16 日 平成 29 年度前期フォトン・ファクトリー研究会公募締切

12 月 19 日 PF 平成 28 年度第二期ユーザー運転終了

2017 年

1 月 7 日～19 日 第 30 回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム（神戸芸術センター）

3 月 14 日～15 日 2016 年度量子ビームサイエンスフェスタ 第 8 回 MLF シンポジウム／第 34 回 PF シンポジウム（エポカルつくば）

※最新情報は <http://pfwww.kek.jp/spice/getscht.txt> をご覧下さい。

第30回日本放射光学会年会・ 放射光科学合同シンポジウム開催要項

1. 開催日 2017年1月7日(土), 8日(日), 9日(月・祝)

2. 場所 神戸芸術センター(兵庫県神戸市中央区熊内橋通 7-1-13)

3. 主催 日本放射光学会

共催 高輝度光科学研究センター、理化学研究所放射光科学総合研究センター、大阪大学蛋白質研究所、科学技術交流財団あいちシンクロtron光センター、九州大学シンクロtron光利用研究センター、高エネルギー加速器研究機構放射光科学研究施設、佐賀県立九州シンクロtron光研究センター、佐賀大学シンクロtron光応用研究センター、産業技術総合研究所分析計測標準研究部門、自然科学研究機構分子科学研究所極端紫外光研究施設、SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC)、東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設、東京大学放射光連携研究機構、東京理科大学総合研究院赤外自由電子レーザー研究センター、東北七国立大学東北放射光施設推進室、名古屋大学シンクロtron光研究センター、日本原子力研究開発機構、日本大学電子線利用研究施設、PF-ユーザーアソシエーション (PF-UA)、兵庫県立大学 New SUBARU、広島大学放射光科学研究センター、VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会、UVSOR 利用者懇談会、立命館大学 SR センター、量子科学技術研究開発機構

4. 組織委員会 ([]は推薦団体, ()は所属機関, ○は委員長)

吾郷日出夫[理研放射光セ]、虻川匡司[東北放射光施設推進室]、雨宮健太[KEK-PF]、石井賢司[量研機構]、石川哲也[学会会長(理研)]、植草秀裕[PF-UA(東工大)]、太田俊明[立命館大SR]、郭其新[佐賀大]、木村洋昭[副実行委員長(JASRI)]、熊坂崇[JASRI、副プログラム委員長]、解良聡[分子研]、後藤俊治[実行委員長(JASRI)]、瀬戸山寛之[SAGA-LS]、高嶋圭史[名大]、高原淳[九大]、竹田美和[AichiSR]、築山光一[東京理科大]、豊川弘之[産総研]、新部正人[兵庫県立大]、西堀麻衣子[SPRUC(九大)]、早川恭史[日大]、福井一俊[UVSOR 懇(福井大)]、松尾光一[HiSOR]、松下智裕[プログラム委員長(JASRI)]、宮脇淳[東大物性研]、矢板毅[原子力機構]、○矢代航[学会行事幹事(東北大)]、山下栄樹[阪大蛋白研]、和達大樹[東大放射光連携、VUV・SX 懇(東大物性研)]、渡部貴宏[学会会計幹事(JASRI)]

5. プログラム要綱

- ・ 7日午後に総会、特別講演を開催予定です。
- ・ 8日夕方に懇親会を開催予定です。
- ・ 8日、9日は企画講演、オールセッション、ポスターセッション、企業展示、施設報告等を行う予定です。

6. 参加費・懇親会費

参加費

区分		11月30日までに支払	12月1日以降 (現地での支払いを お願いいたします)
一般	放射光学会員	6,000円	7,000円
	共催団体(特別賛助団体)会員・職員	7,000円	8,000円
	共催団体(上記以外)会員・職員	8,000円	9,000円
	非会員	12,000円	13,000円
学生	放射光学会員	3,000円	4,000円
	共催団体会員	3,000円	4,000円
	非会員	4,000円	5,000円

懇親会費

区分		11月30日までに支払	12月1日以降 (現地での支払いを お願いいたします)
一般		6,000円	7,000円
学生		3,000円	4,000円

- ・ 発表申込時に参加登録を一緒に行っていただきます。その際、参加費および懇親会費の支払いの手続きも行ってください。事前の支払いは、クレジットカード払い、銀行振込が可能です。手続きの方法は、参加登録開始後放射光学会ホームページ上(<http://www.jsrr.jp>)でご確認ください。なお、参加をキャンセルされた場合の返金はいたしません。
- ・ 参加登録のみの場合も、同じく学会ホームページからできるだけ事前に行ってください。
- ・ 12月1日以降の参加登録、または、11月30日までに事前に支払手続きを行わない場合は、12月1日以降の参加費を現地受付でお支払いください。
- ・ プログラム(冊子)は当日現地受付にてお渡しいたします。また、予稿集については、今回からWeb公開のみとなりました(12月上旬公開予定、一つのPDFファイルにまとめたものも用意いたします)。11月30日までに支払を済まされた方には、公開時に閲覧のためのパスワードを送付いたします。会場には無線LANが届かない部屋もありますので、予めダウンロードいただくことをお勧めいたします。なお、会場でも貸出用USBメモリーから、ご自分のPCにコピーすることができます。

7. 発表者資格

日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムの一般講演・ポスターの発表者(一般講演の登壇者またはポスター発表の説明者)は、①主催団体の日本放射光学会会員、または、②共催団体の会員か職員に限ります。

- (1) 共催団体の会員または職員で日本放射光学会会員となっていない方は、放射光科学の発展に学会が果たしている役割をご理解いただき、ぜひ日本放射光学会への入会をご検討いただきたく存じます。

- (2) 発表を希望される方で、発表申込み時点で上記の資格を有しない方は、発表当日までに資格を取得する必要があります。上記①の資格を必要とする方は、日本放射光学会への入会申込み手続きを至急行ってください。
- (3) 発表者が日本放射光学会の会員、または共催団体の会員・職員である場合は、共同発表者の中に上記の資格を満たさない方が含まれていても差し支えありません。

8. 発表申込について

- ・ 受付開始:**2016年9月1日(木)**
- ・ 申込締切:**2016年10月3日(月) 17:00 厳守**
申込方法:日本放射光学会ホームページ(<http://www.jssrr.jp>)を通して、発表申込、予稿集原稿提出、参加申込を行ってください。
- ・ ネットワークトラブル回避の為、締切日直前の申込みはなるべく避けて下さい。
- ・ 発表形式:オーラルとポスターがあります。希望される発表形式を選択して下さい。
- ・ 発表番号通知:2016年11月上旬に日本放射光学会ホームページ上で公開いたします。

9. 予稿集原稿について

- ・ PDFファイルで作成の上、発表申込の際に投稿してください。
- ・ 原稿形式 発表1件につき、予稿は1/1ページ(A4/縦置き)です。
- ・ A4(縦長)に下記の要領で文字を打ち込み、原稿を作成して下さい。
 - ①用紙の余白/上2.5 cm, 下1.5 cm, 左右2.5 cm
 - ②1行目左端… 実験を行った施設名(12ポイント)
 - ③2行目中央… 表題(18ポイント)
 - ④3行目… 空ける
 - ⑤4行目中央… 著者名・所属(14ポイント)
 - ⑥5行目代表著者のメールアドレス(E-mail: …の形式;14ポイント)
 - ⑦6行目… 空ける
 - ⑧7行目… 本文(14ポイント)
- ・ 文字化けを避けるために必ずフォントを埋め込んでファイルを作成して下さい。

10. プログラムの掲載

- ・ プログラムは、11月上旬に日本放射光学会ホームページ上に掲載いたします。
- ・ 日本放射光学会誌「放射光」**第29巻6号(2016年11月末発行予定)**に掲載いたします。

11. 企画講演の公募

前回と同様に、会員全体から企画講演を公募します。企画講演の形式や応募先・締切等は以下を参照ください。

- ・ 時間配分:1つの企画講演を、趣旨説明を含めて全体で120~180分で4枠予定されています。
- ・ 企画の提案者には、講演の最初に趣旨説明と会期終了後の報告書の提出をお願いします。
- ・ 応募先:日本放射光学会事務局(jssrr@jssrr.jp)宛に電子メールで、①企画講演タイトル、②提案理由(200字程度)、③講演者および時間配分を明記し、応募してください。
- ・ 応募締切:**2016年8月29日(月) 9:00**

12. 会場へのアクセス, 交通のご案内

○新幹線を利用する場合

山陽新幹線 新神戸駅 から 徒歩約 5 分

○在来線・私鉄を利用する場合

JR 神戸線 三ノ宮駅、あるいは、阪急神戸線、阪神本線 神戸三宮駅 乗り換え
市営地下鉄 三宮駅 → 新神戸駅 約 2 分

○神戸空港を利用する場合

ポートライナー 神戸空港駅 → 三宮駅 約 18 分
市営地下鉄 三宮駅 → 新神戸駅 約 2 分

○大阪空港を利用する場合

リムジンバス 大阪空港 → 神戸三宮 約 40 分
市営地下鉄 三宮駅 → 新神戸駅 約 2 分

○車を利用する場合

阪神高速 3 号神戸線生田川 I.C.から約 5 分

運転スケジュール(Sep. ~Dec. 2016)

E : ユーザー実験 B : ボーナスタイム
 M : マシスタディ T : 立ち上げ
 MA : メンテナンス HB : ハイブリッド運転

9月	PF	PF-AR	10月	PF	PF-AR	11月	PF	PF-AR	12月	PF	PF-AR
1(木)			1(土)			1(火)	E		1(木)		
2(金)			2(日)			2(水)	B		2(金)		
3(土)			3(月)			3(木)			3(土)	E	
4(日)			4(火)			4(金)			4(日)		
5(月)			5(水)			5(土)	E		5(月)		
6(火)			6(木)			6(日)			6(火)		
7(水)			7(金)			7(月)			7(水)	B	
8(木)			8(土)			8(火)			8(木)	M	
9(金)			9(日)			9(水)	B		9(金)		
10(土)			10(月)			10(木)	M		10(土)		
11(日)			11(火)			11(金)			11(日)	E	
12(月)			12(水)			12(土)			12(月)		
13(火)			13(木)			13(日)	E		13(火)		
14(水)			14(金)			14(月)			14(水)	B	
15(木)	STOP	STOP	15(土)	STOP	STOP	15(火)		STOP	15(木)		STOP
16(金)			16(日)			16(水)	B		16(金)		
17(土)			17(月)			17(木)	M		17(土)	E	
18(日)			18(火)			18(金)			18(日)		
19(月)			19(水)			19(土)			19(月)		
20(火)			20(木)			20(日)			20(火)		
21(水)			21(金)			21(月)	HB		21(水)		
22(木)			22(土)			22(火)			22(木)		
23(金)			23(日)			23(水)			23(金)		
24(土)			24(月)			24(木)	MA/M		24(土)		
25(日)			25(火)			25(金)			25(日)	STOP	
26(月)			26(水)	T/M		26(土)			26(月)		
27(火)			27(木)			27(日)	E		27(火)		
28(水)			28(金)			28(月)			28(水)		
29(木)			29(土)			29(火)			29(木)		
30(金)			30(日)	E		30(水)	B		30(金)		
			31(月)						31(土)		

スケジュールは変更されることがありますので、最新情報はPFホームページ(<http://www2.kek.jp/imss/pf/>)の「PFの運転状況／長期スケジュール」(<http://www2.kek.jp/imss/pf/apparatus/schedule/>)をご覧ください。